

# JDDW 2025 メディカルスタッフプログラム

## メディカルスタッフプログラム 1

公募・一部指定

「超高齢社会における多職種連携の重要性と実践」

10月31日（金）9：00-12：00 （第13会場）

司会：下瀬川 徹（みやぎ県南中核病院企業団）

七島 篤志（宮崎大・肝胆膵外科）

### 【司会の言葉】

日本は急速な高齢化と若年人口減少に直面しており、消化器病治療においても多職種連携の重要性が増している。高齢化に伴う慢性疾患の増加や地域医療の担い手不足が深刻な課題で、すでに国内の現状は多職種が連携し患者中心の包括的なケアを提供することが不可欠であり、高齢が進むにつれ消化器疾患は多様な合併症を伴うことが増えるため、専門職間の情報共有や共同のケアプランも求められる。また、在宅医療のニーズが高まる中で地域医療連携の強化も不可欠で、医療チームや訪問看護師との連携が重要な役割を果たす。本プログラムでは2025年代以降おとずれるこれらの問題に対処するための多職種連携をテーマに、現場での実践例や新たな取り組み、課題解決に向けた発表を募集する。皆様の貴重な経験と知識を共有し未来の医療を築き、多職種が一体となってより質の高い医療サービスの提供が実現できるよう皆様からのご応募をお待ちしている。

## メディカルスタッフプログラム 2

公募・一部指定

「消化器領域における NP (Nurse Practitioner) /PA (Physician Assistant) の育成」

11月1日（土）14：00-17：00 （第13会場）

司会：安藤 秀明（秋田大大学院・保健学専攻）

酒井 博崇（藤田医大・保健衛生学部看護学科）

### 【司会の言葉】

医療の質・安全性の向上のため、診療補助行為すなわち、一定程度の医行為を行う看護師業務が検討されてきた。米国では50年前より Nurse Practitioner が創設され、看護師全体の10%が NP として活躍している。一方、本邦では、2009年より大学院教育により診療看護師育成、その後、2015年から法的に看護師医行為を実践する育成事業として看護師特定行為研修制度が開始された。近年は医行為医師の働き方改革におけるタスクシェア・チーム医療推進のため、一部の医行為を担う看護師の活躍が期待されている。しかし、現在の本邦の医療を支えるためには育成数が少なく、その役割は施設内の医療事情によって異なるため、診療看護師・特定行為研修修了者、医師、施設のなかでそのあり方を試行錯誤されている段階である。本セッションでは、各施設消化器領域における診療看護師などの一部の医行為を担う看護師育成計画やその活躍を報告していただき、今後の本邦におけるチーム医療の方向性を示唆できるものになりたい。